

3 ぶんかつこうき  
分割後期・二次 国 語

国 語

注 意

- 1 問題は 1 から 5 までで、12ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は五〇分で、終わりは午前九時五〇分です。
- 3 声を出して読むはいけません。
- 4 答えは全て解答用紙にHB又はBの鉛筆（シャープペンシルも可）を使って明確に記入し、**解答用紙だけを提出しなさい。**
- 5 答えは特別の指示のあるもののほかは、各問のA・I・U・Eのうちから、最も適切なものをそれぞれ一つずつ選んで、その記号の○の中を正確に塗りつぶしなさい。
- 6 答えを記述する問題については、解答用紙の決められた欄からはみ出さないように書きなさい。
- 7 答えを直すときは、きれいに消してから、消しくずを残さないようにして、新しい答えを書きなさい。
- 8 **受検番号**を解答用紙の決められた欄に書き、その数字の○の中を正確に塗りつぶしなさい。
- 9 解答用紙は、汚したり、折り曲げたりしてはいけません。

## 1

次の各文の——を付けた漢字の読みがなを書け。

- (1) 地域の伝統を継ぐ。
- (2) 物価の高騰を抑止する。
- (3) 港の人々が豊漁で活気づく。
- (4) 選手と監督を兼ねて活躍する。
- (5) 下敷きの摩擦によって静電気を起こす。

## 2

次の各文の——を付けたかたかなの部分に当たる漢字を楷書で書け。

- (1) 互いを認め合い信頼関係をキズく。
- (2) 自分たちの暮らす町のレキシを調べる。
- (3) この場所が水田だったのはムカシの話だ。
- (4) 次の出港に備えて船にキュウウをしておく。
- (5) 読書に夢中になって時間がたつのをワスれる。

## 3

次の文章を読んで、あとの各問に答えよ。（\*印の付いている言葉には、本文のあとに「注」がある。）

高校三年生でテニス部員の「私」(日々乃希里夏)は、同級生で部長の宮越香凛からいつも「エースとしてチームを引っ張ってほしい。」と言われていた。五月のある日、「私」は香凛に誘われ、テニス部の同級生で、プロ選手になるために海外に留学することを決めた川木裕吾の試合を見に来た。

コートまで行くと、さすがに準々決勝、なかなかの人だかりだった。待ち合わせていた香凛はすでに来ていて、私を見つけると早く早くと手招きする。

「他の人たちは？」

「あの辺に固まってるよ。山本がうるさいからすぐわかる。」

ちょうどそのとき、声援の中から一際大きながなり声が出た。

「まず一本ー！」

なるほど、一発でわかった。男子部と、ぼつぼつ女子部が混ざっているその集団からは距離を取り、私たちはフェンスの空いている場所を見つけて防風ネットに顔を押し付けた。

スコアは2-0。勝っている。川木のサーブゲームだ。川木がトスを上げたところだった。相変わらず、トスが高い。打点も高い。体を弓のようにしならせて、矢のように弾き出すフラットサーブ。センターをレーザービームのように抜けていき、ノータッチエースとなる。

「ナイスサーブ！」

山本の声が響いた。少し怒ったように聞こえるのはいつものことだが、山本は川木の海外行きに関して納得していないと聞いている。複雑な心

境でこの試合を見ているのはきつと私だけじゃないだろう。香凜が以前言いかけたことを思い出す。全員に納得してもらって送り出してほしい……そう思って観ると、川木のプレーは、なんとなく何かのメッセーヂを発しているようにも見えた。

川木は次々とファーストサーブを決めていった。相手だって東京ベスト16まで上がってきている選手だ、弱いはずがないのに、川木に臆する様子はな<sup>い</sup>。そうそう何本もエースを獲<sup>と</sup>らせてはくれず、リターンもきつちり返してくる相手に、川木は鋭いフォアハンドでぐいぐいオープンスペースを作り、やわらかいタッチでボレーを決めていく。川木のボールの方が深く、コースがいいので、ラリーで終始主導権を握っている。

川木はシングルスにムラがある、と山本が言っていたのを聞いたことがある。本人も言っていた。<sup>(1)</sup>「どこが？」と思ってしまう。今日が特別調子がいいのか、それともこれで普通なのか、一緒に練習したことはあるけれど試合を観るのが初めての私には判断がつかない。

あつという間に3-0になった。チェンジコートのとときに、川木と確かに目が合った。

川木は私を認めて、浅くうなずいた。そのままなんでもないようにベースラインに構えて、相手のセカンドサーブをリターンエースで仕留めた。フェンスのこちら側がわつと盛り上がり、轟くような歓声<sup>とどろ</sup>がコートに響き渡る。川木が小さく拳を握って、私と香凜、それから山本たちがいる応援団の方に向かって、ガッツポーズをして見せた。

普段は細く、頼りなく見えるその背中が、とても大きく見えた。<sup>(2)</sup>「声援」という声援が、吸い込まれていくようだった。

ああ。

違う。

全然違う。

私の試合とはまるで違う。

それは、応援したいと思わせる背中だった。

エースとして背負うべきものが、すべて乗っている背中だった。

私の背中にはきつと、あれが乗っていない。チームメイトからの信頼、

期待、エースとしての責任……それらは、きつと重たいものだ。だけど

あいつは、全部乗せてなお、前に突き進んでいく。

川木がエースなのは、川木がすごいからなんだと思っていた。

違う。

すぐければ、エースになれるわけじゃないのだ。

チームの柱だから、エースと呼ばれるのだ。

いつか香凜も言っていた。周りがそう認めたら、エースなんだって。

それなのに私は長いこと、<sup>ッ</sup>エース<sup>ッ</sup>の意味を、はき違えていたのかもしれない。

あんなにも力強く、コートに立っている川木を見て、今ようやくわかった。

そうか、香凜は私にも、ただそうあってほしかっただけなんだ。

<sup>(3)</sup>隣で彼女が川木の名を叫んでいる。

何かが吹っ切れて、私も大きな声を出した。

「ナイスリターン、川木！」

「また朝練なの？」

朝、ウェア姿で家を出ようとしたところで、母につかまった。

「うん。」

「もう大会終わったんでしょう？ まだやるの？」

「最後の大会、残ってるから。」

テニスシューズの靴紐をぎゅつと締める。母の声は、少しずつトーンがあがっていく。

「最後の大会って、いつなの。」

「七月。」

「あんたねえ、七月ってもう夏休みじゃない。受験の天王山てんのうざんは夏なのよ。

そんな時期までなんの準備もせずテニスばかりしてたら本当に、」

「お母さん。」

靴紐を結び終わった私は立ち上がり、振り向く。

思えば、こうしてきちんと目を合わせるの、ずいぶんと久しぶりかもしれない。

(4) 目が合うとは思わなかったのか、母は身を竦すくめていた。その瞳は大きく揺らいでいる。親の気持ちがかかるほど、大人にはなれていない。だけど、口うるさいのは何かの裏返しなんだって、それくらいはわかるよ  
うな気がする。

「あのね、これでも私チームで一番強いの。」

私が言うと、母は何を言うのか、と目を白黒させた。どう思われてもかまわない。それでも、きちんと言っておきたいと思ったから。

「こんなんでも色々背負ってるし、期待してもらってる。だから、その分には応えたい。最後の大会まで、ちゃんと全力でやり切って終わりたい。」

いの。」

川木ももしかして、両親に対してこんなふうには、自分の海外行きを切りだしたのだろうか。私のこんなささやかな独白と、あいつのばかりでかい夢を並べて語るの、ちょっと大げさかもしれないけれど。

「もちろん、受験のことはちゃんと考えてるよ。だから心配しないで。私、そんなに成績悪くないんだから。」

勝手に私に夢見るな、って思っていた。でも夢を見てもらえた、それだけの力があると信じてもらえた——それはきっと、「勝手に」な思いからは生まれない。

大丈夫。私が思っているよりもずっと、自分の背中は大きくて、いろんなものが乗るのかもしれないと思うから。今は自分に期待してくれた人たちを、信じてみようと思う。そこにはちゃんと、母も含まふくれている。

(5) 「あら、そう……。」  
「じゃあ、いつてくるね。」

少し呆ほうけたように「いつてらっしゃい。」と言う母を置いて、私は家を出た。すっきりとした夏空が、いつもより少し目にまぶしい。

(天沢夏月「17歳のラリー」による)

〔注〕 天王山——物事の重大な分かれ目。

〔問1〕<sup>(1)</sup>「どこが?」と思ってしまう。とあるが、この表現から読み取

れる「私」の様子として最も適切なものは、次のうちではどれか。

ア 試合を凝視したものの、以前話に聞いていた川木の弱点を確認することができず、遂方に暮れている様子。

イ 試合中の川木の姿が、話に聞いていたとおりでだったので、山本と川木の客観的な分析に驚嘆している様子。

ウ 以前話に聞いていた川木の強さは分かったが、どこが優れているかが理解できず、困惑している様子。

エ 優勢に試合を進める川木の姿を、以前聞いていた話と結びつけることができず、戸惑っている様子。

〔問2〕<sup>(2)</sup>「声援という声援が、吸い込まれていくようだった。」とあるが、この表現について述べたものとして最も適切なのは、次のうちではどれか。

ア 大きな声援が全く届かないほど集中して試合に臨んでいる川木の様子を、擬人法を用いて説明的に表現している。

イ 大きな声援を受け止めながら堂々と試合をしている川木の様子、たとえを用いて感覚的に表現している。

ウ 大きな声援に丁寧に応じて余裕の表情を浮かべる川木の様子を、擬人法を用いて写實的に表現している。

エ 大きな声援を浴びながら全身で喜びを表している川木の様子、たとえを用いて躍動的に表現している。

〔問3〕<sup>(3)</sup>「何が吹っ切れて、私も大きな声を出した。」とあるが、この表

現から読み取れる「私」の様子として最も適切なものは、次のうちではどれか。

ア 「エース」として自分に何が求められていたのかを理解したこと、これからのような自分であればよいかはつきりした様子。

イ 自分には「エース」になるために必要な実力がないことを実感したが、それでも努力を続けていこうと気持ちを切り替えた様子。

ウ 川木が「エース」であることに納得し、彼を超える「エース」になることにこだわり続けてきた自分自身から解放された様子。

エ 自分が既に「エース」になっていたという事実には気が付かず、これまでの努力が報われて達成感と満足感でいっぱいになった様子。

〔問4〕<sup>(4)</sup>「目が合うとは思わなかったのか、母は身を竦めていた。」とあるが、母が「身を竦めていた」わけとして最も適切なのは、次のうちではどれか。

ア 振り返って真剣に話を聞こうとしてくれている「私」の姿に感心し、「私」の成長をしみじみと実感したから。

イ まっすぐにこちらを見つめる「私」のふだんとは異なる様子に驚くとともに、「私」の意図が分からず動揺したから。

ウ 激しい口調で自分の考えを話し続ける「私」に圧倒されながらも、「私」の気持ちを落ち着かせようと慌てたから。

エ こちらを見つめたまま黙っている「私」を心配するとともに、厳しく言い過ぎてしまったことを反省したから。

〔問5〕「じゃあ、いつてくるね。」とあるが、このときの「私」の気

持ちに最も近いのは、次のうちではどれか。

ア 苦しい時に周囲の誰かが助けてくれたことに感謝し、自分も誰かを支えられる人になろうと意気込む気持ち。

イ 自分の夢は自分だけの力でかなえるものだと自覚し、周囲の人から反対されても自分のやり方を貫こうとする気持ち。

ウ 自分には周囲の人の期待に応える力があると信じ、自信をもって自分の思うように進んでいこうとする気持ち。

エ 期待に応えようと一人で空回りするのではなく、周囲の人を頼りながら成長していこうとする気持ち。

4 次の文章を読んで、あとの各問に答えよ。

「感情」は確かに人間の思考に影響を与える。こうした感情には種類と共に強度があり、同じ悲しみでも「身も世もない」ほどの強烈な悲しみから、なんとなく心が沈んでいる状態までいろいろである。そして強度の強いものを感情と呼ぶのに対して、軽いものを気分と呼んで区別できるだろう。こうした気分は、日々の生活をちよつと楽しくしたり、反対に少し沈んだ気持ちにさせたりする。(第一段)

アメリカの心理学者ゴードン・パウワーは、幸福な気分だと、記憶の中から肯定的な思い出ばかりを引き出しやすい傾向があり、悲観的な気分の時にはその逆の傾向があることを、実験的に示した。(第二段)

私たちは、自分の中に渦巻く強い感情には注目しがちだが、その時々気分には気づかない場合も少なくない。パウワーが実験で注目したのは、このように自分自身も意識しないような、ちよつとした気分の違いであった。実験でこのような微細な気分の違いを作り出すためには、映画(短編映画で充分である)を見てもらうという方法が有効である。また、短い物語を読むのも、同じような効果が期待できる。このようにして気分を誘導した後でさまざまな実験を行つてみると、気分の違いによって結果が異なってくるという研究データが数多くある。(第三段)

こうした気分の効果を示した研究は、実は一九三〇年代にすでに行われていた。この時は、嫌なにおいを嗅がされたグループと、無料のランチを振舞われて良い気分になっているグループに分け、両者に同じ事柄について意見を述べてもらうという方法を取り、良い気分のグループに比べて、気分の良くないグループは否定的な意見を述べる割合が高いと

いう傾向を確認している。(第四段)

自分自身についての評価もまた、その時の気分に影響されるようである。例えば、本人とその友人あるいは恋人が話をしている場面を録画し、その映像を本人に見せて、自分たちの行動を評価してもらった。これまでも同じように、直前に自分を誘導しておく、肯定的気分の人は、肯定的気分の人に比べ、ビデオに映った自分と相手の行動について、肯定的な反応を多く示したことに加え、否定的な指摘が少なかった。確かに私たちは「自分もなかなか捨てたもんじゃない」と感じる日があるかと思えば、「どうせ自分なんて大した人間じゃない」と感じる日もある。良い気分の時なら、誰かの笑顔を見て、友好的なものと感じるのに、否定的気分の時なら、不愉快でわざとらしい笑いだと言ってしまうこともある。(1)ほんのわずかな気分の違いで、私たちの判断は思いの外、違ってしまう。(第五段)

また、気分の違いは判断だけではなく、対人的な態度にも影響を与える。大学生たちの気分を誘導した後、彼らに見知らぬ人から突然小さな依頼がある。その時の彼らの態度を、第三者に評価してもらう。すると肯定的な気分の学生は、相手に対してより友好的な振舞いをした。表情やジェスチャーも多く、自分自身のことをいろいろ話すなど、見知らぬ相手と上手くコミュニケーションを取っていた。これに対して、否定的気分の学生たちは相手に対して素っ気ないやり取りに終始していた。(第六段)

気分が、対人的な態度や自己評価に影響を与える例を紹介したが、気分によって思考の客観性の度合いが異なることを示す研究もある。例によって、大学生たちを幸福な気分のグループと、悲しい気分のグループ

とに分ける。そして、両群の実験協力者たちに、ある事柄(授業料の値上げなど、協力者たちにも関心のあるテーマ)について賛成・反対を表明した文章を読んでもらう。ただし、その文章は、執筆者自身の意見である場合と、賛成あるいは反対の立場で書くように指示されて書いた場合とがあると、最初に伝えられていた。読後に、その文章が執筆者自身の意見なのか、指示されて書いたものかを推測してもらったところ、幸福な気分のグループは、どの文章も執筆者本人の意見であると判断し、指示されて書いたかもしれないという可能性を無視しがちであった。一方、悲しい気分のグループは、それぞれの文章をより精査しようとしていた。つまり、否定的な気分の時の方が、冷静で客観的な判断ができるらしいのである。(第七段)

上記の実験は、「根本的帰属の錯誤」と呼ばれる社会心理学の概念を、気分との関係から調べたものである。「根本的帰属の錯誤」というのは、日常的な例で言えば、座る必要があるとは思えない人が、電車の優先席に堂々と座っているのを見ると、「無神経な人」、「図々しい人」などと感じてしまう。実はまだお腹の目立たない妊婦さんかもしれないし、風邪で熱のある人かもしれないにもかかわらずである。他者のそうした振舞いを見ると、つい私たちは、その人がもともと「図々しい、無神経な」特性を持っていると判断しがちである。(第八段)

人が何か行動をする時には、自分の性格や意思といった「自分自身の持つ特性(内的理由)」のせいである場合と、「何らかの都合(外的理由)」でそのように行動せざるを得なかった場合と両方が考えられる。ところが、私たちは自分以外の人間の行動を、(それが非常識な行動だと特に)

その人の内的理由で生じたものと判断してしまうことが多い。反対に、自分が同じような行動を取る場合には、外的理由があるから仕方ないのだと考えたがる。他者の行動を、その人の特性（内的理由）のせいだと判断してしまう傾向を「根本的帰属の錯誤」と呼ぶ。<sup>(2)</sup>先ほどの研究で示されたのは、良い気分だと根本的帰属の錯誤が働きやすくなり、否定的気分だとその反対の結果になるということである。（第九段）

同様の効果が見出されているのは、根本的帰属の錯誤の場合だけではない。私たちは意図せず、事故や事件の目撃者になってしまう場合がある。そんな時の記憶は曖昧になりやすい。それもあって、質問のされ方によっては記憶の内容に違いが生じてしまったり、もともとは記憶になかった内容を、新しく作り出してしまふことさえ起こる。こうした誤った記憶を誘導する情報は「誤導情報」と呼ばれる。こうした誤導情報に惑わされやすかったのは肯定的気分の人であった。（第十段）

つまり、肯定的気分は、自分の既有知識をもとに世界を理解しようとする傾向を助長しやすい。その反対に、否定的気分は、外界の情報に注意を向かわせ、それをもとに理解・判断する傾向を生みやすくと考えられる。（第十一段）

なぜそんな相違が生じるのだろうか。これについては、ダーウインの主張を用いて解釈できるだろう。感情は、自分が今直面している状況（危機的状況など）に適切に応答するための、一種の信号として働くよう進化しているのだとダーウインは言う。つまり、否定的感情あるいは気分というのは、言わば警報のようなものである。こうした否定的気分は、環境が潜在的に危険なものであること、外的情報に常に注意を払ってお

く必要があることを伝える。だから、外部からのメッセージを素直に信じて、情報の内容を吟味した上で、信用できるかどうかの判断を下す。<sup>(3)</sup>否定的気分は、私たちに物事をより正確に、詳細に見るよう促す役割を果たしていると言えるのかもしれない。（第十二段）

（星薫「となりの心理学」による）

〔問1〕<sup>(1)</sup> ほんのわずかな気分の違いで、私たちの判断は思いの外、違

ってしまふ。とあるが、「私たちの判断は思いの外、違ってしまう」とはどういうことか。次のうちから最も適切なものを選べ。

ア 自分の行動は肯定的に評価し、他者の行動は否定的に評価するということのように、評価に偏った傾向が出ってしまうということ。

イ 同じ物事であっても、評価が肯定的なものになったり否定的なものになったりと、意外なほど変わってしまうということ。

ウ 物事に対する評価が他者の影響を受けやすくなり、気づかないうちに自分に対する評価が否定的になってしまふということ。

エ 自分や他者の行動をどのように評価するかが分からなくなり、肯定的な指摘も否定的な指摘もできなくなってしまうということ。

〔問2〕 この文章の構成における第七段の役割を説明したものと  
最も適切なのは、次のうちではどれか。

ア 文章前半で述べてきた事例に対して視点の異なる事例を加え、文章後半で述べる内容へと論を展開させている。

イ 文章前半で述べてきた事例について共通する問題点を具体的に示し、文章後半の内容に向けて論を補足している。

ウ 文章前半で述べてきた事例の要旨を整理してまとめ、論点を明確にして文章後半の内容へと論をつなげている。

エ 文章前半で述べてきた事例とは反対の立場からの事例を示し、文章後半の主張の逆転へと論を転換している。

〔問3〕<sup>(2)</sup> 先ほどの研究で示されたのは、良い気分だと根本的帰属の錯誤が働きやすくなり、否定的気分だとその反対の結果になるということである。とあるが、「良い気分だと根本的帰属の錯誤が働きやすくな」とはどういうことか。次のうちから最も適切なものを選べ。

ア 肯定的気分の場合、他者の行動は性格や意思とは無関係に、場の状況や何らかの事情で決まると考える傾向があるということ。

イ 肯定的気分の場合、自分の行動が常識的かどうかを、他者の行動と同じであることを基準にして考える傾向があるということ。

ウ 肯定的気分の場合、他者の行動について背景や状況を考慮せず、その人の性格や意思によるものと考えられる傾向があるということ。

エ 肯定的気分の場合、他者が性格や意思に基づいて取った行動を、自分の同じ行動よりも非常識だと考える傾向があるということ。

〔問4〕<sup>(3)</sup> 否定的気分は、私たちに物事をより正確に、詳細に見るよう促す役割を果たしていると言えると考えるのかもしれない。と筆者が述べたのはなぜか。次のうちから最も適切なものを選べ。

ア 外的情報により客観的に物事を判断すれば、気分がもたらす影響を受けずに自己や他者を理解できる可能性があると考えているから。

イ 気分がもたらす影響の危険性を把握すれば、外的情報を正しく理解し、既有知識をもとに判断できる可能性があると考えているから。

ウ 気分がもたらす影響について新しい捉え方を示せば、気分に関する過去の誤った研究を修正できる可能性があると考えているから。

エ 気分がもたらす影響について認識が深まれば、物事をより適切に理解・判断して状況に対応できる可能性があると考えているから。

〔問5〕 国語の授業でこの文章を読んだ後、筆者の考えを参考にして、

「気分が私たちに与える影響」というテーマで自分の意見を発表することになった。このときにあなたが話す言葉を、具体的な体験や見聞も含めて二百字以内で書け。なお、書き出しや改行の際の空欄、や。や「なども、それぞれ字数に数えよ。

5 次のAは、「万葉集」に関する座談会の一部であり、Bは座談会中

で話題にしている和歌の原文、はその現代語訳である。これらの文章を読んで、あとの各問に答えよ。（\*印の付いている言葉には、本文のあとに〔注〕がある。）

A  
清原 「動植物」に移りましょう。

神野 鳥は『万葉集』では約三十種類、四百五十首前後詠まれているそうです。中でも、一番多いのが霍公鳥で百五十首ぐらい。それ

れから雁が六十首ほど、鶯、鶴、鴨、千鳥の順に多いですね。

大部分が、その姿を視覚的に捉えるよりも、聴覚的に捉えるというところが特徴と言っているかと思えます。たとえば、霍公鳥や

鶴の場合で言いますと、九割前後の歌が鳴き声を詠んでいますね。

鶴について言いますと、現在、鶴が飛来するのは本州では山口県熊毛郡の八代、鹿児島県の出水、……。

清原 最近では土佐の四万十川河口の土佐中村に来てますね。

神野 それに対して、『万葉集』の鶴は難波にもいたし、瀬戸内海、近江、大和、越中、東国でも詠まれています。たとえば、黒人の歌に、

磯の崎漕ぎ廻み行けば近江の海八十の湊に鶴多に鳴く

とあって、あちこちの水辺に鶴がいたことがわかりますね。ところで、『万葉集』の鶴というのが現在のどれにあたるのかという問題があります。アオサギやコウノトリ、それからオオハクチョウ

というのにも鶴に含まれたという説がありますけれども、やはりナベヅル・マナヅルのことを言うのだらうと思えます。万葉歌に詠



B 娘子らが かざしのために みやびをの 縷のためと 敷きませる

国のはたてに 咲きにける 桜の花の にほひはもあなに

乙女らの かんざしのために 風流士の かずらのためにと  
大君のお治めになっている 国の隅々まで 咲き満ちている  
桜の花の 輝くばかりのこの美しさは素晴しいなあ

(新編日本古典文学全集「万葉集」による)

〔注〕 黒人——高市黒人。歌人。

磯の崎漕ぎ廻み行けば近江の海八十の湊に鶴多に鳴く

——磯の崎を漕ぎ廻つていくと、近江の海には多くの港々に鶴が

鳴きしきっている。

(中西進「万葉集」による)

鬘——髪飾り。

屋戸——庭先。

峯——「峰」と同じ。

縷——「鬘」と同じ。

風流士——風流を好む男性。

大君——当時の天皇。

〔問1〕<sup>(1)</sup> ただとあるが、この言葉が直接かかるのは次のうちのどれか。

A 鳴き声を

イ 鑑賞する

ウ 態度では

エ なくて

〔問2〕<sup>(2)</sup> そういうように、満開の一時期ではなくて、非常に長く梅を

見ています。とあるが、ここでいう「非常に長く梅を見ていま  
す」を説明したものととして最も適切なものは、次のうちではどれ  
か。

A 散っていく梅の花びらがまるで雪のように見える様子を、早朝か

ら夜まで観察し続けて、和歌にうたっているということ。

イ 時期ごとに姿を変える梅を詳細に和歌にうたい続ける中で、花の

盛りが最も美しいという価値観を生み出したということ。

ウ 一時の流行に惑わされず、日本を代表する花として梅を大切にし

続け、時代を超えて和歌にうたい賞賛してきたということ。

エ まだ枯れ木の段階から、花が咲き、やがて散っていくまでの長い

期間にわたり、梅を和歌にうたい、鑑賞しているということ。

〔問3〕<sup>(3)</sup> 神野さんのこの発言が、この座談会の中で果たしている役割

を説明したものとして最も適切なものは、次のうちではどれか。

ア これまで話題にしてきた内容に新たに別の例を加え、過去と現代との花の捉え方の違いという別の内容へと話を転換させている。

イ 直前の発言の花と生物との組み合わせという話題に興味をもち、別の組み合わせの例を提示して話の内容を深めようとしている。

ウ 直前の発言に対して新たな視点を示し、これまでとは別の角度から花をうたった和歌について考察するように話題を展開させている。

エ これまで話題にしてきた花とは異なる例を挙げ、直前の発言の内容に対して抱いた疑問を解消しながら話を進展させようとしている。

〔問4〕<sup>(4)</sup> 梅の回数が多いと言うのは、中国から輸入されたばかりで奈良朝近辺で貴族のステータス・シンボルのようにもてはやされたからでしょう。とあるが、「中国から輸入されたばかりで

の「ばかり」と同じ意味・用法のものを、次の各文の――を付けた「ばかり」のうちから選べ。

ア 昨日買ったばかりの服を着て、友人たちと桜を見に出かける。

イ 林の奥へと進むと、聞こえるのは蟬の鳴き声ばかりになった。

ウ この山路をあと一キロばかり歩けば、紅葉の名所に到着する。

エ 真っ白な雪景色に、子供たちは飛び上がらんばかりに喜んだ。

〔問5〕<sup>(5)</sup> これは梅には無い表現ですから、とあるが、清原さんが桜に

は用いられるが梅には用いられないと指摘している表現について、          の中の語句を使って説明したものとして最も適切なものは、次のうちではどれか。

ア 「かんざしのために」咲いているという表現。

イ 「風流士のかずら」に咲いているという表現。

ウ 「国の隅々まで」咲いているという表現。

エ 「輝くばかり」に咲いているという表現。